

## 華人社会からみた 2022 年マレーシア総選挙

篠崎香織（北九州市立大学）

### 0. はじめに：民族の枠組みを通じた代表者の確保

2022 年総選挙では、華人有権者が政府内に華人の代表者を確保するためにどのような選択を行うかが注目された。

マレーシアの華人は、政府内に華人の代表を確保し続けてきた。半島部マレーシアでは独立期に、国民はマレー人、華人、インド人のいずれかの民族 (bangsa) に位置付けられ、民族別の政党が連立与党を構成することにより各民族が政府に代表者を送るという仕組みが構築された。民族別政党は、統一マレー人国民組織 (United Malays National Organisation: UMNO)、マレーシア華人協会 (Malaysian Chinese Association: MCA) マレーシア・インド人会議 (Malaysian Indian Congress: MIC) である。また 1972 年に連立与党に加わったマレーシア人民運動党 (Parti Gerakan Rakyat Malaysia: グラカン) は多民族政党であったものの、連立与党内では華人政党に位置づけられた。

政府内に華人の代表者を確保することは、華人にとって重要性を増しつつある。その背景の 1 つは、華人の人口比率の縮小である。マレーシア国籍者における華人の割合は、2000 年に 26.0%、2010 年に 24.6%、2022 年に 22.8% と縮小の一途をたどっており、2030 年には 20% 未満になるとの予測もある。ブミプトラを優先する政策が実施されている中で、華人のさらなる周縁化が懸念されている。そのため連邦政府および州政府に華人の代表者を確保して、マレーシア社会のあり方を決める意思決定の場に華人の代表者を確保していくことがますます重要視されている。連邦政府の大臣・副大臣や、州政府の行政評議会の評議員に華人の代表者を確保することにも注意が払われている。

もう 1 つのより差し迫った背景に、2020 年 3 月の政権交代によって与党内の華人の代表者がほぼ皆無となる事態があった。この政権交代で国民戦線 (Barisan Nasional: BN) と国民連盟 (Perikatan Nasional: PN) の連立政権が発足した。同政権には BN の構成政党である MCA が参加していたが、MCA 所属の下院議員は 2 人のみで、これが与党内の華人議員の総数となった。大臣・副大臣職に MCA から 4 人が任命され (うち 2 人は国王により任命された上院議員)、政府内に華人の代表者を出すことができたものの、大臣・副大臣の総数は 70 人であり、華人の大臣・副大臣の割合は華人の人口比率に遥かに及ばないものとなった。

しかし 2020 年 3 月の政権交代で、華人の代表者の激減を招いたのは、ほかならぬ華人自身だったという側面もあった。華人が投じた票がこうした状況を作り出してきた。

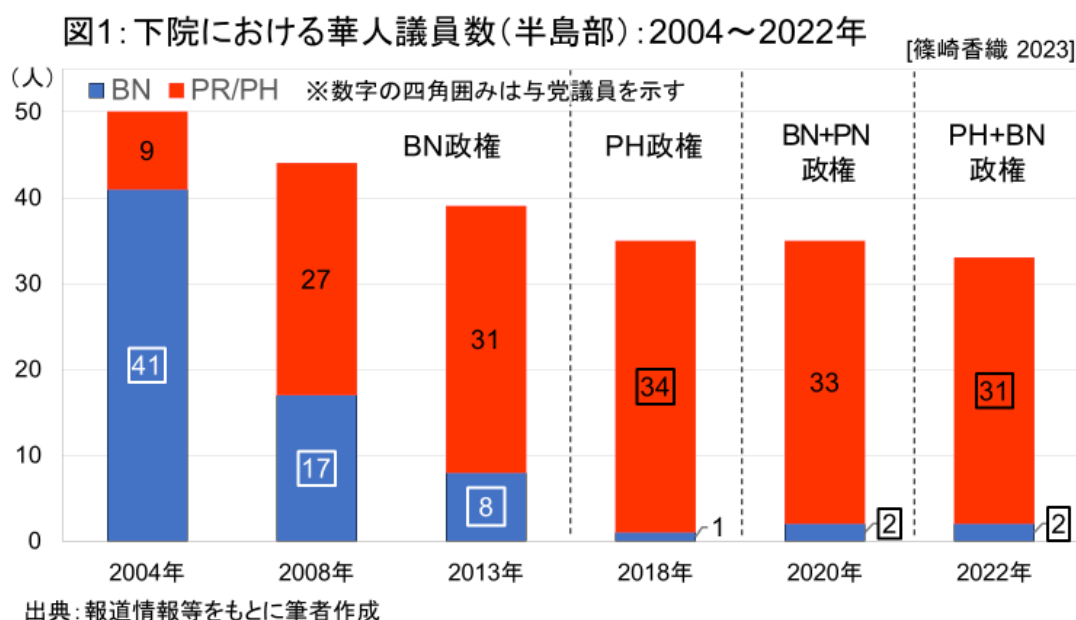
### 1. 華人の投票傾向 (2004 年～2018 年)：与党 BN 支持から BN 離反へ

半島部マレーシアで与党は基本的に、華人の人口比率が高い選挙区では華人政党のもと

華人候補者を立ててきた。これに対する野党も、1999年以降は選挙協力を結び、2013年以降は政党連合を結成し、華人党員が多い政党が華人候補者を立ててきた。したがって華人の人口比率が高い選挙区では一般に、与野党に分かれて華人候補者が立てられてきた。華人有権者は華人の代表者の選択と、候補者が所属している政党連合の選択という2つの選択が求められてきた。

1999年総選挙から2018年総選挙までは、1つの選挙区に与党BNと野党連合から1人ずつ候補者が立てられた。具体的には、BNからはMCAまたはグラカンが華人候補者を立て、野党連合からは民主行動党（Democratic Action Party: DAP）または人民公正党（Parti Keadilan Rakyat: PKR）が華人候補者を立てた。

図1は、2004年、2008年、2013年、2018年、2022年の総選挙と、2020年の政権交代時の下院における半島部選出の華人議員数と与野党別に示したものである。



華人は2004年総選挙まではMCAとグラカンを支持する傾向が強かった。同選挙でMCAとグラカンは41議席を獲得したのに対し、野党DAPは9議席を獲得するのみであった。

この傾向は2008年総選挙で大きく変化した。その背景にはUMNOに対する華人有権者の嫌悪感の高まりがあった。2005年頃からUMNOはマレー人の支持を獲得するための言動を強めた。例えば党大会で、クリスという短剣を掲げながらクリスを血で染めてまでもマレー人の利益を死守するとの言動がとられた。クリスはUMNOの党のロゴや党旗にもあしらわれており、マレー人の文化的シンボルである。しかし華人はこうした言動をUMNOが非マレー人を傷つけることを厭わないというメッセージとして受け取り、不快感を抱いた。華人は非マレー人の感情を傷つけるUMNOのあり方をBN内部で抑制す

るよう MCA やグラカンに求めたが、2008 年総選挙の選挙活動で MCA やグラカンにはその意思がないと判断されるような言動が相次いだ。2008 年総選挙で MCA とグラカンは獲得議席数を大きく減らし、両党合わせて 17 議席にとどまった。これに対して DAP と PKR は 27 議席を獲得した。半島部では BN と野党連合の人民連盟（Pakatan Rakyat）の獲得議席数が拮抗し、政権交代が現実味を帯びるようになった。

2013 年総選挙で MCA とグラカンはさらに獲得議席数を減らし、8 議席を獲得するのみとなった。DAP と PKR の獲得議席数は 31 議席に増加した。

2018 年総選挙では、野党が希望連盟（Pakatan Harapan: PH）を発足し、構成政党の DAP および PKR の華人候補者が 34 議席を獲得した。与党 BN では MCA の華人候補者の獲得議席は 1 議席のみとなった。同総選挙でマレーシア史上初の政権交代が起こり、PH が与党となったため、与党内に華人議員が 34 人確保されることとなった。そのうち 5 人が大臣に、7 人が副大臣に就任した。PH 政権下で華人は、政府内に華人の代表者を確保することができた。

## 2. PH 政権（2018 年 5 月～2020 年 2 月）：華人の DAP に対する批判

UMNO が政権から退くことで、ブミプトラを優先する政策が緩和することを華人は期待していた。しかし PH 政権が導入した政策の中には、華人が強く反発したものも少なくなかった。

華人の反発を招いた政策の 1 つに、マトリキュラシ（matrikulasi）の定員の増加があった。マレーシアの公立大学に進学する主な方法には、マレーシア教育修了証（Sijil Pelajaran Malaysia: SPM）取得後にマトリキュラシに進み、マトリキュラシ課程試験（Peperiksaan Semester Program Matrikulasi）を経て進学する方法と、大学予備課程（フォーム 6）に進み、マレーシア教育高等修了証（Sijil Tinggi Persekolahan Malaysia: STPM）を取得して進学する方法がある。2019 年 4 月時点でマトリキュラシの定員は 2 万 5,000 人で、STPM の定員は 4 万 3,000 人であった。

しかしマトリキュラシはブミプトラの大学進学を促進するために設置された機関である。1999 年の開校以降、段階的に非ブミプトラも受け入れるようになったものの、その割合は 2019 年 4 月時点で 1 割のみとされていた。マトリキュラシ課程試験はマトリキュラシ進学後 1 年で受験が可能で、2 年間課程の STPM よりも難易度が低いと見られている。マトリキュラシは医学部や薬学部を含む理工系学部に重点的に進学者を送り出しており、これらの学部では STPM 取得者の受け入れ枠が極めて小さいことが指摘されている。大学入学者の選考は、入学者の割合をブミプトラ 55%、非ブミプトラ 45%と定めていたクォーター制を廃し、2002 年に能力主義（meritokrasi）に移行したとされている。これに対して華人は、能力主義とは同一の基準で評価した成績に基づき大学入学者を選考することであり、大学入学者を選考する成績評価を STPM に統一すべきだと求めてきた。

マトリキュラシに対してこうした批判があるなかで、2019年4月にマズリー・マリク（Maszlee Malik）教育大臣は、ブミプトラ9割、非ブミプトラ1割の割合を維持したままマトリキュラシの定員を4万人に増員すると発表した。これを受けて、公立大学におけるSTPM取得者の受け入れ枠がさらに縮小しうるとの批判が相次いだ。DAPのテオ・ニーチン（Teo Nie Ching／張念群）が教育副大臣を務めているにもかかわらず、このような決定に至ったことにも批判が寄せられた。

華人の不満を招いたもう1つの案件に、国民型小学校でのジャウイの習字の必修化があった。マレーシアの初等教育には、マレー語を教授言語とする国民小学校（Sekolah Kebangsaan）と、華語またはタミル語を教授言語とする国民型小学校（Sekolah Jenis Kebangsaan）がある。2019年7月にマズリー教育大臣は、国民型小学校の4年次から6年次のマレー語の科目でジャウイの習字を必修化すると発表した。これに対し、マレーシア華語学校教師総会やマレーシア華語学校董事総会など華語学校関係者から反対の声が上がった。必修となれば試験に出題されるのかといった懸念や、正規の授業時間に組み込むことが時間的に困難であること、ジャウイの書き方を教授できる教員がいないことなど、現場の負担という観点からの反対があった。また華語小学校のマレー語小学校への転換を疑っての反対や、国民小学校でイスラム教の科目でジャウイの習字を教授していることを踏まえて、宗教の自由を侵害しうるという観点からの反対もあった。テオ教育副大臣などDAP議員は、ジャウイの習字は宗教ではなく文化であり、友人の文化を知ることは重要であるなどとして華語学校関係者の理解を求めたものの、華語学校関係者の反対は収まらなかった。さらにマハティール首相がマレーシア華語学校教師総会とマレーシア華語学校董事総会を「人種主義者」と批判したため、華語学校関係者が反発を強めた。

最終的にPTAと生徒およびその保護者の同意を得た国民型小学校でのみジャウイの紹介に留める内容を教授することとなった。ジャウイ習字の教授に同意しない国民型小学校は、その旨を毎年表明することが義務付けられた。2021年のデータによると、半島部の国民型華語小学校の98%がジャウイ習字の導入に同意しないと表明した。国民型小学校でのジャウイ習字の必修化は、国民型小学校のあり方を大きく変えるものとはならなかったものの、華人がDAPを批判する際にしばしば言及される批判の根拠となった。

このほかにも華人の間にDAPに対する批判的な論調を生むような出来事があった。

2019年10月に開催されたマレー人の尊厳会議（Kongres Maruah Melayu／Malay Dignity Congress）にマハティール首相も出席するなかで、華語およびタミル語の小学校を廃止すべしとの要求が公然と出された。マレー人の尊厳会議はマラヤ大学が主催し、3つの大学が共催する学術活動と位置づけられていた。しかしマハティールを党首とするマレーシア統一プリブミ党（Parti Pribumi Bersatu Malaysia）が介入し、政治的な色彩が色濃い集会になったと指摘されていた。

華語で教授する私立の華文独立中学の修了資格をマレーシアの公立大学の入学資格とし

て承認するよう DAP は求めてきたが、それは PH 政権下で実現しなかった。

DAP 党首であり財務大臣であったリム・グアンエン (Lim Guan Eng/林冠英) が、トウクアブドゥルラーマン大学 (Universiti Tunku Abdul Rahman: UTAR) に対する助成の打ち切りを決定した。UTAR は華人に高等教育を提供すべく MCA が 1964 年に設立したトウクアブドゥルラーマンカレッジを前身に、2001 年に設立された大学であった。

DAP は多民族政党であり、その議員の多くは自らを特定の民族の代ではなく全ての民族の代表と位置づけている。特定の民族の代表者として振舞えば、民族政党が民族を庇護する BN と同様の政治構造をもたらすことになり、プミプトラを優先する政策が継続する要因になりうるとしている。これに対して 2019 年以降、華人の間で DAP に対し、DAP は華人の支持を受けて選挙に勝ったのだから、華人の代表者でありすべての民族の代表者でもあるという振る舞いをすべきであるという声が聞かれるようになった。

PH 政権が発足し、リム・グアンエンが財務大臣に就任した際、中国の記者からタン・シウシン (Tan Siew Sin/陳修信) 以来 44 年ぶりに華人が財務大臣に就任したことについてコメントを求められた。これに対してリム・グアンエンは、自身は華人の代表者ではなくマレーシア人の代表であると答えた。当時この回答は、PH 政権が民族によらない社会の構築を目指す意志の表れとして華人に好意的に受け入れられた。しかしこの回答は 2019 年以降、リム・グアンエンが華人の代表者であることを放棄しているという文脈で言及されるようになった。

### 3. 選挙によらない政権交代と華人代表者の周縁化 (2020 年 3 月～2022 年 11 月)

PH 政権下で与党内に華人の代表者を確保できていた状況は、2020 年 3 月以降、大きく変化した。政党間での議員の移籍と政党間の連立の組み換えによって BN と PN の連立政権が発足し、PH は一転して野党となった。

華人有権者は 2008 年総選挙以降、2013 年、2018 年と、DAP および PKR 所属の華人議員への支持を一貫して強めていった。しかし 2020 年 3 月の政権交代以降、そのような投票傾向を再検討すべきとの声が聞かれるようになった。

2020 年 3 月以降、政党間の議員の移籍と政党間の連立の組み換えにより、政権交代が生じる可能性が常にあった。いずれか一方の陣営に華人議員が偏在していることはリスクであるとの指摘が聞かれるようになった。華人は DAP と PKR のみに投票するのではなく、BN を構成する MCA にもある程度投票し、政権が変わっても華人の代表者を確保できる態勢を取るべきであるとの意見も聞かれるようになった。

華人の支持が MCA に回帰するような兆候もうかがえた。2021 年 11 月のマラッカ州議会選挙と 2022 年 3 月のジョホール州議会選挙で DAP が議席を減らし、MCA の獲得議席数が増えた (表 1 および表 2)。華人有権者の支持が MCA に回帰しているとの分析もなされるようになった。

表1: マラッカ州議会  
選挙結果

2018年総選挙			2021年11月		
BN	UMNO	13	BN	UMNO	18
				MCA	2
				MIC	1
PH	DAP	8	PH	DAP	4
	PKR	3		BERSATU	2
	BERSATU	2		AMANAH	1
	AMANAH	2			

出典: 報道情報等をもとに筆者作成  
[篠崎香織 2023]

表2: ジョホール州議会  
選挙結果

2018年総選挙			2022年3月		
BN	UMNO	17	BN	UMNO	33
	MIC	2		MCA	4
				MIC	3
PH	DAP	14	PH	DAP	10
	PKR	5		PKR	1
	BERSATU	8		AMANAH	1
	AMANAH	9		MUDA	1
	PAS	1		BERSATU	2
				PAS	1

出典: 報道情報等をもとに筆者作成  
[篠崎香織 2023]

2022年総選挙では与党がBNとPNに分かれてそれぞれ候補者を立て、PHが野党として候補者を立て、3つの政党連合の間で票が争われた。華人の比率が多い選挙区では、BNではMCAが、PNではグラカンが、PHではDAPまたはPKRがそれぞれに候補者を立て、1選挙区に3人の華人候補者が立つこととなった。三つ巴の争いとなり、どの政党連合も単独で過半数を獲得するのは難しいことが予想され、選挙後にどのような連立与党が形成されるのかが注目された。

#### 4. 2022年総選挙の結果

2022年総選挙では、華人の票が一定程度、MCAやグラカンに回帰するのではないかと予想された。しかし2022年総選挙の投票結果を見ると、華人のMCAやグラカンへの支持は大きく回復しなかった。表3のとおり、MCAの獲得議席数は解散前と同じ2議席で、DAPの獲得議席数は2018年選挙と同数の24議席であった。グラカンは議席を獲得できなかった。表4は、華人の比率が65%以上を占める12の選挙区でのデータである。いずれの選挙区でもDAP候補者がMCAおよびグラカンの候補者の得票数を大きく引き離していた。

しかし選挙結果は全体として、華人に大きな懸念を抱かせるものとなった。半島部での獲得議席数は、PHが71議席、PNが70議席、BNが23議席であった。当初はPNが組閣に強い意欲を見せており、PNとBNが再び連立政権を組む可能性があった。そうなれば華人の代表者がほぼ皆無となる状況が再び生じるため、華人の間にはPHとBNによる連立政権の発足を望む声が強く聞かれるようになった。

表3: 下院における政党別・民族別獲得議席数: 2022年

	マレー人	華人	インド人	半島部 合計
BN	20	2	1	23
UMNO	20	0	0	20
MCA	0	2	0	2
MIC	0	0	1	1
PH	29	31	10	71
DAP	2	24	6	33
PKR	18	7	4	29
Amanah	8	0	0	8
MUDA	1	0	0	1
PN	70	0	0	70
PAS	49	0	0	49
Bersatu	21	0	0	21
Gerakan	0	0	0	0
合計	119	33	11	164

MCAの獲得議席数は  
解散前と同じ2議席

DAPの獲得議席数は  
2018年総選挙と同数

グラカンは議席を  
獲得できなかった。

出典: 報道情報等をもとに筆者作成

[篠崎香織 2023]

表4: 華人が多数派(65%以上)を占める選挙区の選挙結果 PH-DAP BN-MCA PN-グラカン

選挙区	民族割合 (%)				当選者	得票数	次点	得票数	3位	得票数
	C	M	I	O						
Kepong	85.5	7.0	6.9	0.5	Lim LipEng (PH - DAP)	64,308	Yap Zheng Hoe (BN - MCA)	3,227	Phaang Jing Fat (PN - GERAKAN)	2,795
Tanjong	81.7	8.2	9.7	0.4	Lim Hui Ying (PH-DAP)	31,968	Tan Kim Nee (BN-MCA)	3,214	H'ng Khoon Leng (PN-GERAKAN)	2,501
Cheras	77.1	14.8	7.6	0.6	Tan Kok Wai (PH - DAP)	60,294	Chin Yoke Kheng (PN - BERSATU)	5,846	Chong YewChuan (BN - MCA)	5,606
Seputeh	76.8	13.4	8.9	0.8	TeresaKok (PH - DAP)	73,234	Wong Yee Yeng (PN - GERAKAN)	6,047	Lee Kah Hing (BN - MCA)	6,032
Bkt Bintang	71.6	15.3	12.0	1.1	Fong Kui Lun (PH - DAP)	43,827	Tan Teik Peng (BN - MCA)	4,850	Edwin Chen (PN - BERSATU)	4,259
Bkt Bendera	71.2	16.1	11.7	1.0	SyerleenaA. Rashid (PH-DAP)	49,353	Hng Chee Wey (PN-GERAKAN)	6,743	Huan Xin Yun (BN - PCM)	5,417
Bkt Gelugor	71.1	16.1	11.8	0.5	RamkarpalSingh (PH-DAP)	71,204	P. Thinagaranabhan (PN-BERSATU)	8,092	Wong Chin Chong (BN-MCA)	6,777
Bagan	69.3	15.3	15.0	0.3	Lim GuanEng (PH-DAP)	55,797	Alan Oh Teik Choon (PN-BERSATU)	6,149	Tan ChuanHong (BN-MCA)	5,385
Batu Gajah	69.1	13.4	17.2	0.3	SivakumarVaratharaju Naidu (PH - DAP)	60,999	Woo Cheong Yuen (PN - GERAKAN)	7,163	Teoh Chin Chong (BN - MCA)	6,793
Ipoh Timor	68.4	23.7	7.4	0.4	Lee ChuanHow (PH - DAP)	57,549	NorAfzainizam Salleh (PN - BERSATU)	13,661	Ng Kai Cheong (BN - MCA)	8,570
Bkt Mertajam	67.4	21.7	10.7	0.3	Sim CheeKeong (PH-DAP)	71,722	Steven Koh Tien Yew (PN-PAS)	14,037	Tan Yang Pang (BN-MCA)	6,986
Damansara	66.2	22.9	9.9	1.0	Gobind Singh Deo (PH - DAP)	142,875	Lim Si Ching (PN - GERAKAN)	18,256	Tan Gim Tuan (BN - MCA)	13,806

C: 華人, M: マレー人, I: インド人, O: その他

出典: 報道情報等をもとに筆者作成

[篠崎香織 2023]

2022年総選挙の選挙運動期間中、DAPの候補者はBNを批判する戦術を取っていた。華人有権者の間には、BNとりわけUMNOに対する反感が依然として強かった。他方で華人有権者の間では、2020年3月以降、DAPがUMNOと連立を組めば政権が安定するのではないかという声も聞かれるようになっていた。『東方日報』が2022年9月6日に掲載した同紙による意識調査では、来る総選挙でどの政党連合も単独で政権をとれなかった場合、PHはBNと連立を組むべきだと思うかという問いに対して、「組むべき」が21.28%、「組むべきでない」が42.01%、「状況次第」が30.11%という回答であった。

結果として11月24日にPHとBNによる連立政権が発足し、与党内に33人の華人議

員が確保された。大臣・副大臣は 55 人が任命され、そのうち 11 人が華人議員であった。新政府内に華人の人口比率に見合った割合の華人代表者を確保することは叶った。

## 5. 今後の展望

華人有権者と華人の支持に依拠して当選した華人議員、とりわけ DAP 所属議員との関係は、新政権下でどのように展開していくかが引き続き注目される。

アンワル・イブラヒム (Anwar Ibrahim) は首相就任の会見で、すべての民族や宗教、地域の権利を守っていくと宣言した一方で、マレー人とブミプトラの特別な権利とイスラム教の国教としての地位を守るとも宣言した。新政府にはマレー人の庇護者として自己を位置付ける UMNO が参加している。新政府でも、ブミプトラおよびマレー人を優先する政策がとられるだろう。

DAP は華人有権者から華人社会の意向を組んだ調整役を期待されている。しかしその任務は、連立を組むマレー人議員や政党との摩擦を回避し、マレー人有権者の警戒や反感を呼ばずに遂行する必要がある。MCA とグラカンはかつて、これとまさに同じ立場に置かれていた。Khor and Khoo (2008) は、ペナン州の政権党も務めたグラカンは、華人政党としての役割を担わされたことにより結果的に衰退したと論じている。

DAP の議員は、民族政党である MCA と多民族政党である DAP は全く異なることを強調したり、多民族政党であるのに華人政党の役割を担わされたグラカンの轍を DAP が踏まないことを表明したりしている。DAP 議員は、華人有権者と連立を組む相手からそれぞれに求められる役割と、全てのマレーシア人のために奉仕するという自己の理念との間に葛藤を抱えることも多々あるだろう。DAP 党内にも DAP は華人の代表者として振舞うべきだとの立場をとる人たちが少なからず存在する。

政党間の連立の組み換えにより政権交代が生じる可能性も消えたわけではない。激しく敵対してきた PH と BN が連立を組むなど、政党間の連立の組み方に新たな局面も現れた。華人有権者は華人の利益を代表してくれる政党や議員が、政党間の連立をめぐる策略の中で柔軟に生き残って与党に残り続けることを望むであろう。2022 年総選挙で当選した華人議員が最も多く所属する DAP には、華人有権者からそのような期待も寄せられている。

## 参考文献

Khor, Neil Jin Keong and Khoo Kay Peng (2008) *Non-Sectarian Politics in Malaysia: The Case of Parti Gerakan Rakyat Malaysia*, Kuala Lumpur: Trafalgar Publishing House.